

テック企業決算アップデート

2026年5月28日

平素より当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

直近の決算シーズンにおいて、当ファンドの構成銘柄の業績動向を整理しましたのでご報告いたします。AI（人工知能）関連投資の急拡大を背景に、多くの企業が市場予想を大幅に上回る好決算を発表しています。

■ 直近四半期決算の振り返り：AI需要が業績をけん引

主要テック企業の直近決算では、生成AI需要を背景にAI関連企業への利益集中が一段と鮮明となりました。エヌビディアはデータセンター（DC）売上が前年同期比92%増と急拡大し、マイクロソフト、グーグル（アルファベット）、アマゾンもクラウド・AI需要がけん引して市場予想を上回る業績を発表しました。一方でハイパースケーラー各社はAIインフラ投資を大幅に拡大しており、巨額な設備投資による短期的な利益圧迫懸念も意識されました。アップルは「iPhone」更新需要とサービス収益が堅調で、AI機能強化に向け研究開発投資を加速しました。TSMC、ブロードコム、マイクロンなどの半導体勢もHBM（広帯域メモリ）需要拡大を背景に好業績を維持しています。

■ 主なZテック20組入れ銘柄（2026/5/22時点）の決算概況

セグメント	主な銘柄	売上高成長率	注目ポイント
AI半導体	エヌビディア	+85%	DC部門売上92%増で過去最高更新。Blackwell需要拡大で急成長。
	ブロードコム	+29%	AI半導体収益106%増。
	AMD	+38%	AI GPU需要拡大でDC事業成長加速。
メモリ半導体	マイクロン	+196%	HBM需要で大幅増収。次期粗利率の会社計画は81%。
	SKハイニックス	+198%	AI向けHBMの需要が急拡大。大規模な設備投資計画を発表。
	サムスン	+69%	AIメモリ需要がけん引。半導体部門利益が大幅拡大。
製造装置	アプライド・マテリアルズ	+11%	AI向け半導体装置需要で会社計画上振れ。
	ラムリサーチ	+24%	先端パッケージング需要拡大が成長を後押し。
	ASML	+13%	AI向けEUV露光装置需要が堅調で受注残高が高水準維持。
クラウド	マイクロソフト	+18%	AI年間ランレート370億ドル突破、Copilot急拡大。
	アマゾン	+17%	AWS28%増で高成長加速。営業利益過去最高。
	グーグル	+22%	GeminiでCloud急成長。クラウドの受注残はほぼ倍増。
	オラクル	+22%	AIクラウド受注急拡大で成長再加速。
プラットフォーム ・デバイス	アップル	+17%	iPhone17シリーズ好調。CEO交代を発表。
	メタ	+33%	AI広告効率改善が寄与し売上好調。設備投資予想を引き上げ。

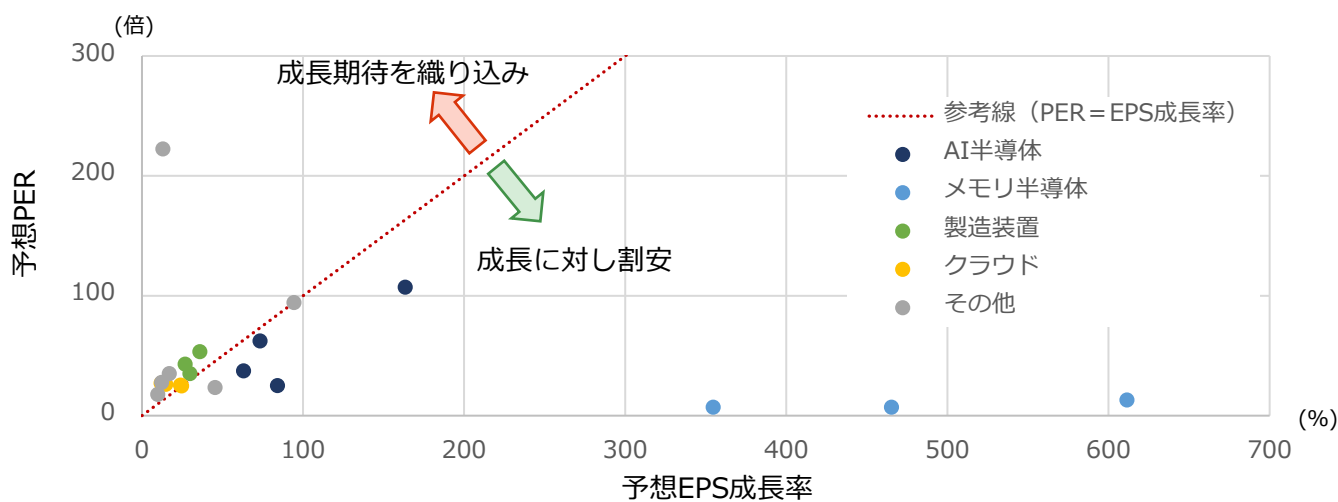
※売上高成長率は前年同期比

(出所) Bloombergより大和アセット作成

バリュエーションと成長率

株価上昇が続く中、「テクノロジー株は割高ではないか」との懸念も聞かれます。しかし、予想EPS成長率と予想PERの関係（PEGレシオ：企業の中期的な利益成長率を加味して株価の水準を測る指標）を分析すると、セクター全体が一律に過熱しているというよりも、AI対応力や利益成長力によって評価が大きく分かれている状況が確認できます。特に、エヌビディアやマイクロンなどのAI関連企業は、高い利益成長が見込まれる一方で、成長率対比では依然として魅力的なバリュエーション水準にあると考えられます。また、マイクロソフト、アルファベット、アマゾンなどの大手ハイパースクーラーは、安定した利益成長を背景に、おおむね成長率に見合った妥当な評価レンジで推移しています。一方で、一部銘柄では将来の新規事業への期待が先行し、足元の利益成長対比では高い評価となっているケースも見られます。もっとも、ファンド全体では大型安定銘柄が中核を占めており、個別銘柄のボラティリティが全体へ与える影響は一定程度抑制される構造となっています。

Zテック20組入銘柄（2026/5/22時点）の予想EPS成長率と予想PERの関係



(出所) Bloombergより大和アセット作成

今後の成長見通し

決算と同時に示された各社のガイダンスからは、AI投資の勢いが依然として強いことを示す内容となりました。エヌビディアは市場予想を上回る売上見通しに加え、新たなAI向けCPUの投入により成長領域の拡張を示しました。豊富なキャッシュフローを背景とした積極的な株主還元も、事業基盤の強さを裏付けています。クラウド各社も投資拡大姿勢を一段と鮮明にしています。グーグルはAI需要の拡大を見据え設備投資の引き上げを示唆し、アマゾンもAIインフラへの継続的な投資方針を強調するなど、長期成長に向けた布石が着実に進んでいます。メモリ分野では、マイクロンやSKハイニックスにおいて高性能メモリ需要のひっ迫が続いており、供給拡大に向けた動きが加速しています。インテルもAI関連事業の成長と先端プロセスの進展により、回復基調が見え始めています。こうした動向を総合すると、AIを軸とした投資サイクルは一過性ではなく、バリューチェーン全体に広がる中長期の成長トレンドへと移行しつつあります。今後も各分野での成長持続が期待され、構成銘柄群の収益拡大基調が続くことを想定しています。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- ・日本を除く世界の株式の中からテクノロジー関連企業の株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

- ・日本を除く世界の株式の中からテクノロジー関連企業の株式に投資します。
- ・毎年 12 月 10 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益配分方針に基づいて収益の分配を行ないます。

■ 一般社団法人資産運用業協会が定める「信用リスク集中回避のための投資制限」（分散投資規制）では、投資対象に支配的な銘柄が存在するまたは存在する可能性が高いファンドを特化型運用ファンドとしています。支配的な銘柄とは、次のいずれかの割合が 10% を超える銘柄をいいます。

- ・投資対象候補銘柄の時価総額に占めるその銘柄の時価総額の割合
- ・運用管理等に用いる指数に占めるその銘柄の構成割合

■ 当ファンドは、主要投資対象に支配的な銘柄が存在するまたは存在する可能性が高い特化型運用ファンドです。このため、特定の銘柄へ投資が集中することがあり、発行体に経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

株価の変動 (価格変動リスク・信用リスク)	<p>株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。</p> <p>当ファンドは、一銘柄当たりの組入比率が高くなる場合があり、より多数の銘柄に分散投資した場合に比べて基準価額の変動が大きくなる可能性があります。また、特定の分野に関連する銘柄に投資しますので、こうした銘柄の下落局面では、基準価額が大きく下落することがあります。</p>
為替変動リスク	<p>外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。</p>
カントリー・リスク	<p>投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となる場合があります。</p>
その他	<p>解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。</p>

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 ※徴収している販売会社はありません。	—
信託財産留保額	ありません。	—

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率0.495% (税抜0.45%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配分 (税抜) (注1)	委託会社	年率0.215%
	販売会社	年率0.215%
	受託会社	年率0.02%
その他の費用・ 手数料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期間の最初の6か月終了日(休業日の場合翌営業日)および毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場投資信託証券は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

お申込みメモ

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 (1 万口当たり)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額 (1 万口当たり)
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 5 営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	① ニューヨーク証券取引所またはナスダック (米国) の休業日 ② ①のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日 (注) 申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせ下さい。
申込締切時間	原則として、午後 3 時 30 分まで (販売会社所定の事務手続きが完了したもの) なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了 (繰上償還) できます。 ・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	年 1 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 (注) 当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA (少額投資非課税制度) の適用対象となります。 当ファンドは、NISA の「成長投資枠 (特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

設定・運用:

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
一般社団法人資産運用業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

加入協会

Daiwa Asset Management

※詳しくは「投資信託説明書 (交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドに関するお電話でのお問い合わせ

☎0120-106212

(受付時間：営業日 9：00～17：00)

※お客様のお取引状況・その他口座内容に関するご照会はお取引先の銀行、証券会社等の金融機関にお問い合わせください。

URL <https://www.daiwa-am.co.jp/>

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

iFreePlus 世界トレンド・テクノロジー株 (Zテック20)

販売会社名 (業態別、50音順) (金融商品取引業者名)		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBIネオトレード証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第8号	○		○	
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
moomoo証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3335号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。